

道の駅「大谷海岸」復旧整備事業について

1 概 要

震災前、4つの棟(※)で構成されていた道の駅「大谷海岸」を大谷海岸地区防潮堤及び背後の国道 45 号と同じ高さで一体的に整備する背後地へ移転し、1つの施設として復旧整備を行うもの。

整備する道の駅は地元や市内商工・観光関係者との対話により、以下のコンセプトを掲げ、本市の南の玄関口として、地域の産業振興・交流人口の拡大に資する拠点とする。

<p>コンセプト・スローガン</p> <p>いつでも帰れる場所 大谷海岸 ～砂浜を守る想いから始まるまちづくり～</p> <ul style="list-style-type: none">・気仙沼市の産物を活かした飲食・物販が味わえる、楽しめる場所・情報発信を通じて、様々な交流が望める場所・文化・体験・体感ができる場所・交通の要所、ターミナルとなる場所

(※震災前)	①はまなすステーション (物販・飲食施設)	905.08 m ²	
	②農林水産物直売センター (産直施設)	188.00 m ²	
	③農林水産物加工センター (加工販売施設)	91.50 m ²	
	④24 時間トイレ	58.00 m ²	合計 1,242.58 m ²

2 事業規模

建 築：木造平屋建て 延べ床面積 1,376 m²

外 構：敷地面積 1.1ha

事業費見込み：1,553,059 千円

(財源内訳)	災害復旧費	928,537 千円
	移転補償費	295,562 千円
	国交省負担金	162,315 千円
	復興交付金	115,242 千円
	JR 負担金	51,403 千円

3 検討経過

➤平成 28 年 11 月～平成 30 年 2 月まで 道の駅再建検討委員会 (全 14 回開催)

現在の道の駅運営組織である(株)本吉町産業振興公社取締役らで構成された委員会において、道の駅敷地の利用方法及び基本方針を策定。

➤平成 30 年 3 月～現在 道の駅「新・大谷海岸」検討委員会 (5 回開催)

策定された基本方針を基に、品揃えの観点から全市を挙げての対応が必要との共通認識のもと、市内商工観光事業者、地元関係者、JR、JA、JF 等を委員とした市が事務局となる委員会を設置。

また、委員会の下に 3 つの部会 (①経営②生産仕入③施設)を置き、各課題について全 8 回の議論を重ね、道の駅の整備計画を策定。今後は、施設の運営について検討を進める。

4 事業スケジュール

